

道立高等学校長庁内公募（中間・**期末**）報告

学校（所属）名	職名	氏名	年齢	公募校長としての着任年月日
北海道帯広三条高等学校	校長	合浦英則	59	令和2年4月1日

## 1 これまで取り組んできた改革

## ◇学びの質を変えることで魅力ある高校へ～「学び」の3乗（三条）計画 3.0

保護者・地域・行政と連携・協働し、学びの質を変えることにより学力の向上、進路実現を目指す  
 《最終目標》

- ・生徒自身が「学びの地図」を描くことのできる探究活動を中心とした教育プログラムの構築
- ・地域とともに人材を育てる都市型モデル構築

## (1) 学びの質を変える取組

ア 単元配列表による教育活動のマネジメント      イ 地域と協働した探究活動の推進

## (2) 働き方改革の推進

ア 担任二人制の実施      イ シフト制の実施

## 2 進捗状況及び成果

## (1) 学びの質を変える取組

ア 単元配列表による教育活動のマネジメント

◆進捗状況60%～単元配列表・ルーブリック・研修体制は整備された。残る課題はICT活用による個別最適化学習の取組と授業改善のレベルである。5要素の内3要素は達成できたものとみて進捗率を60%とした

- ・単元配列表は全年次で4月当初に完成
- ・本校の育てたい資質能力のルーブリック完成【資料1】
- ・授業評価アンケートの「主体的な学び・対話的な学び・深い学びができるような工夫がなされているか」という問いに昨年に続き高い評価（肯定的評価 90.8%）
- ・1年次において端末を利用したHR経営並びに教科指導
- ・ICT活用に関する体験型研修の実施
  - ①6月8日 Google Classroom を使った評価方法に関するワークショップ
  - ②9月7日 Google カレンダーについてのワークショップ
- ・全教科による「指導と評価の一体化」をテーマに授業公開と協議からなる教科研修を実施【資料2 例として数学の研究協議報告】

イ 地域と協働した探究活動の推進（CLASSプロジェクト2年目）

- ◆進捗状況40%～新学習指導要領下での探究プログラム1年次分を提示できたことから
- ・1年次での地域と協働した探究活動実施（15の地域課題ゼミ、課題発表会）
- ・外部人材として28団体、のべ117名の方が参加協力【資料3】
- ・探究活動による変容について生徒からは高い評価【資料4】
- ・教員側はとまどいもみられる【資料5】

## (2) 働き方改革の推進【資料6】

◆進捗状況80%～本校におけるシフト制は完成した。また超過勤務時間は着実に減少している。今後はこの縮減の取組を継続し、学校文化として根付くよう改善に努めていく。

ア 超過勤務時間縮減

- ・超過勤務時間の縮減を着実に果たしている。

イ シフト制

- ・今年度より新たに45分前倒しのパターン追加
- ・3パターンの中から自分で選択する無理のないシフト制 今年度 21名（延べ人数 31名）
- ・年度初め、長期休業、考査期間、学校祭・球技大会などの行事期間は除く
- ・シフト制を希望した教員は昨年度からもさらに超過勤務時間縮減

ウ ICT活用による負担軽減

- ・欠席メール連絡 5138件（昨年度 3669件）
- ・保護者宛文書配信 81件（昨年度 75件）

エ 教頭の働き方改革

- ・教頭もシフト制 → 朝45分・週2回
- ・主幹教諭との業務分担 → 校舎施錠を分担

- ・校長との打合せの簡略化 → スタンディングミーティング  
※超過勤務時間年間平均 40.8 時間（参考：昨年度教頭 62.4時間）

### 3 課題及び解決に向けた方策

#### (1) 課題

- ア ICT を活用した個別最適化学習
- イ 業務の共有化と効率化、特に二人担任制における進路指導
- ウ 働き方改革への意識向上
- エ 大学との連携

#### (2) 解決に向けた方策

- ア 外部 ICT 教材の有効的な活用
- イ 業務の効率化について面談での聞き取りや中間反省でのテーマ設定
- ウ コアチームによるシフト制を中心とした諸改革の評価と改善
- エ 大学との連携に向けた授業交流（出前授業やオンライン授業等）

### 4 成果と課題を踏まえた今後の取組予定

#### (1) 学びの質を変えるための取組

- ア 単元配列表による教育活動のマネジメント
  - ・指導と評価の一致に関する研修会継続実施
  - ・授業公開月間（互見授業）の継続
  - ・ICT 教材の有効的な活用に向けた研修
- イ 地域と協働した探究活動の推進
  - ・次年度の類型別探究活動に向けた大学との連携や協力体制構築
  - ・コーディネーター継続に向けた方策検討

#### (2) 働き方改革の推進

- ・担任二人制における進路指導体制の整備
- ・シフト制の定着に向けて課題の洗い出し

三条高校が育成を目指す資質・能力

4個の力

①～④

10個の力

①～⑩

① 高いコミュニケーション能力を備え、他と協働して課題を解決する力	① 傾聴力	相手の立場や意図を理解しながら、丁寧に耳を傾けながら「相手の話を注意深く積極的に聴く」力
	② 発信力	相手の立場や意図を理解しながら、自分の意見について、適切な手法を用いながら「相手に分かりやすく伝える」力
	③ 想像力	実際に見たり聞いたりしたことがないことや、経験したことがないことを「頭の中で思い浮かべながら次の活動に生かそうとする」力
	④ 創造力	正解が一つだと決められない課題に対して、「自分なりの答えを見つけ出すことができる」力
② 知識・技能の確実な習得をもとに、そこから思考・判断・表現する力	⑤ 計画力	問題点を明らかにし、それを解決するための方法や順序を事前に考えながら、「よりよい計画を立てる」力
	⑥ 知識活用力	課題解決のための方策を見だし提示するために、「既得の知識・技能を適切に活用する」力
③ 地域に対する理解を深め、そこから広く社会・国際社会を探究する力	⑦ 分析力	よりよい社会を構築するために「課題や問題点を抽出しながら、物事を調査して要素を整理したり、掘り下げたりする」力
	⑧ 課題発見力	よりよい未来を創造するために「批判的思考力を持ちながら客観的に現状を分析し、課題を明らかにする」力
④ 自らの将来について主体的に考え、その実現に向けて努力する力	⑨ 自己肯定力	よりよい人生を送るために「自分自身の価値や存在意義を見だし、自分自身を認め、尊重できる」力
	⑩ 行動力	よりよい人生を送るために「自ら考えたことを行動に移すことができる」力

V		IV		III		II		I	
3年次									
A		B		C		2年次			
		A		B		C		1年次	
				A		B		C	
相手の話を熱心に聴き、言葉の意味だけを捉えるのではなく、声のトーンや表情にも注意を払って、相手が意図することを引き出しながら理解することができる。 【プラス積極性】	相手の話を熱心に聴き、言葉の意味だけを捉えるのではなく、声のトーンや表情にも注意を払って、相手が意図することを理解することができる。 【プラス注意力】	相手の話を熱心に聴き、言葉の意味を捉え、相手が意図することを理解することができる。 【プラス能力】	相手の話を熱心に聴こうとしている、言葉の意味を捉えようとしている。 【プラス意欲】	相手の話を聴いたり、言葉の意味を捉えたりしようとしていない。	相手の話を熱心に聴き、言葉の意味だけを捉えるのではなく、声のトーンや表情にも注意を払って、相手が意図することを理解することができる。 【プラス積極性】	相手の話を熱心に聴き、言葉の意味だけを捉えるのではなく、声のトーンや表情にも注意を払って、相手が意図することを理解することができる。 【プラス注意力】	相手の話を熱心に聴き、言葉の意味を捉え、相手が意図することを理解することができる。 【プラス能力】	相手の話を熱心に聴こうとしている、言葉の意味を捉えようとしている。 【プラス意欲】	相手の意見を伝えようとしていない。
相手の求めていることを考えながら、自分の意見を分かりやすく、過不足なく正確に、的確な言葉や情報機器を用いて伝えることができる。 【プラス正確性】	相手の求めていることを考えながら、自分の意見を分かりやすく、的確な言葉や情報機器を用いて伝えることができる。 【プラス思考力】	自分の意見を分かりやすく、的確な言葉や情報機器を用いて伝えることができる。 【プラス能力】	自分の意見を分かりやすく、的確な言葉や情報機器を用いて伝えようとしている。 【プラス意欲】	自分の意見を伝えようとしていない。	相手の言動から意図や気持ちを想像し、円滑にコミュニケーションを図ることができるだけでなく、様々な視点で考えたり、新しいアイデアを生み出したりしながら次の行動に生かすことができる。 【プラス積極性】	相手の言動から意図や気持ちを想像し、円滑にコミュニケーションを図ることができるだけでなく、様々な視点で考えたり、新しいアイデアを生み出そうとしている。 【プラス積極性】	相手の言動から意図や気持ちを想像し、円滑にコミュニケーションを図ることができる。 【プラス能力】	相手の言動から意図や気持ちを想像し、円滑にコミュニケーションを図ろうとしている。 【プラス意欲】	相手の言動から意図や気持ちを想像したり、コミュニケーションを図ったりしようとしていない。
常識にとらわれずに様々なことに疑いを持ち、考え、模索し、想像したことを計画・立案し、実践を繰り返すことで、新しいものや価値を生み出すことができる。 【プラス実践力】	常識にとらわれずに様々なことに疑いを持ち、考え、模索し、想像したことを計画・立案し、実践することで、新しいものや価値を生み出そうとしている。 【プラス批判的思考力】	様々なことに興味・関心を持ち、想像したことを実践し、新しいものや価値を生み出すことができる。 【プラス能力】	様々なことに興味・関心を持ち、想像したことを実践しようとしているとともに、新しいものや価値を生み出そうとしている。 【プラス意欲】	想像したことを実践しようとしていない。	問題点を明らかにし、そこから課題を整理して、それを解決するための優先順位を付け、やるべき事や手順などを考えたことを仲間と共有することを通じてよりよい計画を立てることができる。 【プラス積極性】	問題点を明らかにし、そこから課題を整理して、それを解決するための優先順位を付け、やるべき事や手順などを考えたことを仲間と共有することを通じてよりよい計画を立てることができる。 【プラス協働性】	問題点を明らかにし、そこから課題を整理して、それを解決するためにやるべき事や手順などを考えることができる。 【プラス能力】	問題点を明らかにし、そこから課題を整理して、それを解決するためにやるべき事や手順などを考えようとしている。 【プラス意欲】	課題を解決するためにやるべき事や手順などを考えようとしていない。
学習して得た知識・技能を用いて、情報を収集・分析・評価し、課題の発見と解決のために必要な構想を立て、実践し、評価・改善することを通じて、解決のための方策を見だし提示することができる。 【プラス分析力】	学習して得た知識・技能を用いて課題の発見と解決のために必要な構想を立て、実践し、評価・改善することを通じて、解決のための方策を見だし提示することができる。 【プラス実践力】	学習して得た知識・技能を用いて課題の発見と解決のために必要な構想を立て、実践し、評価・改善することができる。 【プラス能力】	学習して得た知識・技能を用いて課題の発見と解決のために必要な構想を立て、実践し、評価・改善しようとしている。 【プラス意欲】	学習して得た知識・技能を用いて課題の発見と解決のために必要な構想を立てようとしていない。	地域課題を正しく把握し、ICT機器等を活用しながら課題解決のために必要な情報を集め、情報の内容を正確に把握し、他者と協働しながら根拠に基づき情報を適切に整理するとともに、次の活動に生かそうとしている。 【プラス積極性】	地域課題を正しく把握し、ICT機器等を活用しながら課題解決のために必要な情報を集め、情報の内容を正確に把握し、他者と協働しながら根拠に基づき情報を適切に整理できる。 【プラス整理力】	地域課題を正しく把握し、ICT機器等を活用しながら課題解決のために必要な情報を集め、情報の内容を正確に把握することができる。 【プラス能力】	地域課題を正しく把握し、ICT機器等を活用しながら課題解決のために必要な情報を集め、情報の内容を正確に把握しようとしている。 【プラス意欲】	ICT機器等を活用しながら課題解決のために必要な情報を集めたり、把握したりしようとしていない。
現状に満足せず、前提や思い込みにとらわれずに課題を見だし、課題解決後に起こるであろう次なる課題を想像する視野の広さを持ちながら、地域や国際社会を適切に考察することができる。 【プラス視野の広さ】	現状を正しく把握しつつ、違和感や困り感を感じながら、解決すべき課題を自分なりに見いだすこととどまらず、現状に満足せず、前提や思い込みにとらわれずに新たな課題を見いだすことができる。 【プラス批判的思考力】	現状を正しく把握しつつ、違和感や困り感を感じながら、解決すべき課題を自分なりに見いだすことができる。 【プラス能力】	現状を正しく把握しつつ、違和感や困り感を感じながら、解決すべき課題を自分なりに見いだそうとしている。 【プラス意欲】	解決すべき課題を自分なりに見いだそうとしていない。	他者の意見を尊重しながら自分の強みや弱みを客観的に理解し、他者の評価を過度に気にすることなく、自らの意思に基づいて積極的に行動することができる。 【プラス自立性】	他者の意見を尊重しながら自分の強みや弱みを客観的に理解し、積極的に行動することができる。 【プラス客観性】	自分の強みや弱みを自分なりに理解し、積極的に行動することができる。 【プラス能力】	自分の強みや弱みを自分なりに理解しようとしているとともに、積極的に行動しようとしている。 【プラス意欲】	自分の強みや弱みを自分なりに理解したり、積極的に行動したりしようとしていない。
目的や目標を明確に持ち、達成のための手段を自ら考え、思考や発言だけで終わらせずに実行に移し、最後まで責任を持ってやり遂げることができる。 【プラス見通し力】	思考や発言だけで終わらせずに実行に移すだけでなく、最後まで責任を持ってやり遂げることができる。 【プラス完遂力】	思考や発言だけで終わらせずに実行に移すことができる。 【プラス能力】	思考や発言だけで終わらせずに実行に移そうとしている。 【プラス意欲】	思考や発言に終始し、実行に移そうとしていない。					

# 数学科 研究協議報告

## 1 公開授業について

- (1) 日 時 2月2日(木) 7校時 1年12組( $\alpha$ コース)
- (2) 授業者 山上祥吾 教諭
- (3) 単 元 数学I 第5章「データの分析」 質的データ、仮説検定
- (4) 学習指導案および評価の観点 別紙参照

## 2 研究協議

### (1) 主体的・対話的で深い学びについて

分割表によるアンケート結果の分析、仮説検定による主張の評価について、前時の習得した知識を用いてグループで協働し主体的に考え、対話的に協議することができていた。

### (2) 観点別評価について

本時は数学I「データの分析」の終盤にある「統計的な問題解決」を目標とする単元で「質的データ、仮説検定」という考え方をを用いてデータを分析し考察することができるかという点が今回の身に付けさせたい学力となる。PPDACサイクルによる問題解決に至る考え方できるかどうか最も重要な点であり、「思考・判断・表現」での観点別評価に分類される。

### (3) 評価の方法・評価規準について(別紙指導案参照)

本時の内容については、習熟度の $\alpha$ コースのみで扱う発展的な内容であるため、振り返りと評価に関しては記録として扱い次年度以降の指導に生かしたい。

### (4) ICT機器の効果的な利用について

今回の公開授業では、グループでの意見をドキュメントに書き込み内容を共有することや、コイントスの実験データをWeb上のシミュレーション結果を用いることに利用した。グループ発表やまとめの時間を短縮したり、シミュレーションを用いたりすることでより実験的になり「仮説検定」への主体的な学びへと繋がったと考えられる。

## 3 まとめ

- ・ 現行の「データの分析」に新しく加わった内容であり、指導方法(ICT機器の活用・評価・発表など)・内容自体が目新しく大変参考になった。また、内容については数学Bの「統計的な推測」に繋がるものであるため、2年次の単元配列についても協議できた。
- ・ このように新しく加わる指導内容については、受験を見据えたレベルまで3年次までに上げる必要があるため、将来的にどのような形式で出題されるのか等、模試などを分析して指導しなくてはならない。
- ・ ICT機器については、物理的に機器の数が限られているため必要ときに効果的に使用できるように適切な配置をしてもらいたい。

数学科学習指導案

本日、7校時よろしくお願  
 いたします。クラスコード  
 「42ipinz」に入り、タブレット  
 端末をお持ちください。

日 時 令和5年2月2日(木) 7校時  
 対象生徒 1・2組(α) 31名  
 使用教室 1年1組教室(3F)  
 授業者 山上祥吾(帯広三条)  
 単元名 質的データ、仮説検定

1 学習の流れ

場面【時間】	学習活動	教師の働きかけ																																				
導入【5分】	前時の学習内容の確認 事前アンケートの結果の確認 本時の学習内容の確認	前時の資料を投影しながら内容を確認する 事前アンケートの結果を公表する 本時の学習内容を確認する																																				
展開Ⅰ【10分】	<p><u>分割表による分析</u> 提示された資料をもとに適切な分割表を作成し、分析を行う。 分割表の例)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>%</th> <th>満足</th> <th>満足でない</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>部活</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>分析の例) 「部活に満足しているの方が高校生活全般に満足している場合が多い」 「性別による満足の違いがある」など</p>	%	満足	満足でない	計	授業				部活				合計				<p>表計算ソフトを利用して集計結果を提示する タブレット端末を用いて適切な分割表を作成させ、分析させる 机間巡視 例)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>%</th> <th>満足</th> <th>満足でない</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1年</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2年</td> <td>?</td> <td>?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3年</td> <td>?</td> <td>?</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>上記のような例を提示して調査する項目によって分析もいろいろな視点があることを示す</p>	%	満足	満足でない	計	1年				2年	?	?		3年	?	?		合計			
%	満足	満足でない	計																																			
授業																																						
部活																																						
合計																																						
%	満足	満足でない	計																																			
1年																																						
2年	?	?																																				
3年	?	?																																				
合計																																						
展開Ⅱ【15分】	<p><u>仮説検定による主張の評価</u> 設定された[1] (主張) に対して、[2] (仮説) を立てる 仮説の例)</p> <p>[1] (主張) 三条生は制服に満足していない [2] アンケート結果は偶然に過ぎない</p> <p>コイン投げのシミュレーションから主張が正しいかどうか仮説検定の考え方をを用いて判断する</p>	<p>[1] (主張) を設定し、[2] 仮説を立てさせる 机間巡視</p> <p>コイン投げのシミュレーションを投影する 机間巡視</p>																																				
まとめ【5分】	振り返りシートに記入する	クラスルームを通じて振り返りを提出するように指示する																																				

2 評価について

評価	評価基準
A	目的に応じて複数のデータを収集し、適切な分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現できる。また、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる〔思・判・表〕
B	データを収集し、データの傾向を把握して事象の特徴を表現できる。また、主張の妥当性について実験などを通して判断することができる〔思・判・表〕
C	上記以外 <Cの生徒に対する手立て> 分割表の読み取り方を再度確認する。特にどの項目を全体としているかを丁寧に説明する。仮説検定の考えの良さに触れ、主張を強めるために有効であることをくりかえし伝える。仮説 [1] (主張) [2] (仮説) が立てにくい生徒には簡単な言葉で再整理させる。

\* これらを授業中の「観察」や「振り返り」から評価する。

【資料3】 外部人材活用について

ゼミテーマ	企業・団体名	ゼミテーマ	企業・団体名
よりよい街づくり	帯広市役所	十勝の食と農業	you tuber
	株式会社そら		シンガーソングライター
生産者・飲食店・観光客の「三方よし」を考える	株式会社クナウパブリッシング	帯広・十勝における福祉の課題	帯広市役所地域福祉課
地域×高校生=???	十勝イベント協会		Otete to Otete
	浦幌町地域おこし協力隊		学童保育所
帯広の光を観る・十勝のスポーツを探究しよう	とかち財団		相談支援事業所 向日葵
帯広の光を観る・子どもたちに十勝の魅力と夢を伝えよう	ホテルヌブカ	商品開発	帯広市役所経済企画課
帯広の光を観る	ドット道東		帯広物産協会
	NHK		中田食品
	日本旅行		T Pパック
	キャンドル		ハピオ
	帯広市役所	満寿屋	
十勝のスポーツを探究しよう	帯広市役所スポーツ課	子どもたちに十勝の魅力と夢を伝えよう	司会業
十勝の自然について考える	ベアマウンテン		カウンセラー
	石塚建設		ライター
世界とつながる十勝	JICA職員	地域における高校の役割	天売高校教諭

28団体、のべ人数にして 117名 の方に協力していただいた